

小平市教育委員会 様

学 校 名 小平市立小平第十小学校
校 長 氏 名 山 縣 弘 典 印

令和6年度教育課程について（届）

このことについて、小平市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教 育 目 標

(1) 学校の教育目標

小平市教育委員会教育目標及び小平市教育振興基本計画を踏まえ、

- ◎ 考える子（第1重点目標「問題解決力」、「思考力・判断力・表現力」の育成）
- ◎ やさしい子（第2重点目標「人間関係形成力」の育成）
- たくましい子（「実践力」、「自己の健康・生活を見つめる力」の育成）
- やりとげる子（「困難な課題にも向かう力」の育成）

を本校の教育目標とし、よき社会の形成者として、知性と感性、そして健康な心身をそなえ、互いの人格を尊重し合って生活できるやさしく、かしこく、たくましい児童の育成をめざすとともに、地域の学校として、地域・保護者と一体となって子どもたちを幸せに導くことのできる「コミュニティ・スクール十小協働学校」、「キーステーション十小」を創る。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ① 安心・安全で整備された学校環境かつ安定した学校、学年、学級の中で、社会に開かれた教育課程における主体的かつ対話的な学びを通して、学びを深める児童を育成する。そのために、教科横断的な視点での授業改善や地域・保護者と協働する学校づくりなどのカリキュラムマネジメントを確立するとともに、教員の一層の指導力向上と教職員のチーム力を高める。
- ② 「地域の中の学校」、「地域で育つ学校」の考え方を土台として、学校、保護者、地域、関係機関等、様々な人々の参画と協働により、より質の高い教育をめざす。
- ③ 「考える子」及び「やりとげる子」を育てるために、
 - ・ 自分のよさに気付き、生涯にわたって学び続ける基盤となる主体性や学ぶ意欲・態度を育てる。
 - ・ 各教科等において、特に「話すこと」、「書くこと」を重視し、思考力・判断力・表現力等、確かな学力の定着と活用や課題解決に向けた実践力の育成を図る。
- ④ 「やさしい子」を育てるために、
 - ・ 「自分も他者も大切にすること」という人権尊重の理念を基盤として、自他の個性や立場を認め、多様な見方や考え方があることを理解する。
 - ・ 社会の一員として公共心や他者との好ましい関係を結ぶ力を育てる。
 - ・ 自他の生命を尊重し、感じ取る心や感動する心、互いに協力し高め合う態度等、規律正しく豊かな人間性の基盤となる感性や社会性を育てる。
- ⑤ 「たくましい子」を育てるために、
 - ・ 自ら進んで運動に親しみ、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、自らの生活を振り返り、望ましい生活習慣を身に付け、心身共に健康に生活するための素地を養う。
- ⑥ 学校の教育目標の達成に向けたその他の事項
 - ・ 児童一人一人の教育的ニーズを捉え、保護者、関係機関等と連携し、組織的にきめ細かな指導・支援する中で、生活や学習上の困難を克服し、改善を図る。
 - ・ 児童の安心・安全を確保のために、学校危機管理を徹底し、児童の安心・安全を最優先した組織的な安全指導・安全管理に万全を期して、児童のよさや能力が最大限に発揮できるようにする。
 - ・ 保護者、地域、近隣教育機関や関係諸機関等との連携、協働による多様な学びの環境を整備し、社会に開かれたより質の高い教育を推進し、児童の豊かな学びや成長を支える。
 - ・ 社会人として、教育公務員として、小平市並びに小平市立小平第十小学校の教職員として、「教育は人なり」の志を強く自覚する。また、服務規律を遵守し、「小平十小あったか先生」を基本姿勢として、人権感覚を磨くとともに、丁寧かつ迅速な対応、報告・連絡・相談の徹底など組織的に研鑽を重ねながら、「オール十小・チーム十小」で職務を遂行する。
 - ・ 教育活動の周知、理解・啓発を図るため、学校ホームページの毎日更新や学校だより、学級だより、保健だより、給食だより、学校ホームページなど各種通信の内容や発行・更新を充実させる。

2 指 導 の 重 点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各 教 科

- ・ 授業改善推進プランに基づいた「教えて、考えさせる授業」の展開と主体的・対話的な学びを通じた深い学びのある授業を展開する。特に、「学ぶ意欲」を高めるための授業を追究し、指導と評価の一体化を要点として共同研究・協働実践を進める。さらに、児童による授業評価を定期的に取り入れ、児童の思いや願いを授業や教育活動に反映できるようにする。
- ・ 一単位時間の学習課題及び学習の流れを児童に明確に示し、学習活動に見通しをもたせるなど、ユニバーサルデザインの視点に基づいた指導及び教育環境、教室環境の改善・充実を図る。
- ・ 全学年で、担任間の交流授業や教科担任制を試行実施し、教科の専門性の追究はもとより、幅広く児童理解を進めながらオール学年で指導に当たる。
- ・ 算数科においては、第3～6学年は東京方式習熟度別指導ガイドライン改訂版に基づいた習熟度別による指導を行う。また、東京ベーシック・ドリル等の教材の活用による朝学習の取組や夏季休業中の補習を実施する。
- ・ 学習者用端末、デジタル教科書や書画カメラ、ICT機器、学校図書館等の積極的な活用、ICT支援員や学校司書等との連携を図りながら、児童の学ぶ意欲を高めるとともに、プログラミング教育を適切に取り入れた学習活動を試行実践する。
- ・ 体育科の授業を中心に、多様な動きを取り入れた遊び・運動やコーディネーショントレーニングを取り入れた活動やマラソン、なわ跳び月間、大なわ跳び大会等の取組を推進する。
- ・ 養護教諭、栄養士等との連携による「心と体の学習」を毎学期各学年で実施する。また、「がん教育」を第6学年、DVDを活用したいじめ、自殺、虐待を予防・防止する学習「SOSの出し方に関する教育」を全学年において実施する。
- ・ 毎学期「十小学習見直し週間」を設定して、家庭学習の励行（毎日、学年×15分以上）や学習用具の確認などを保護者に呼びかけるなど、家庭と連携して学習習慣の定着を図る。

イ 道徳科

- ・ 道徳教育全体計画及び年間指導計画に基づき、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。また、道徳教育推進教師を中心に、他教科等との連携を図りながら、全教育活動を通して道徳教育の充実を図る。
- ・ 「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることのできる児童」の育成を重点指導事項とする。人権尊重の精神と、生命への畏敬の念を育み、自他のよさを理解し、互いに思いやって行動する児童を育成する。
- ・ 検定教科書、東京都道徳教育教材集、私たちの道徳を使用して、「考え、議論する道徳」となる質の高い授業を推し進めるとともに、道徳の授業と学級会との関連を図り、話し合いを充実させる。
- ・ 道徳授業地区公開講座の実施や道徳の取組の発信等を通して、保護者、地域との連携強化を図り、心の教育を推進する。また、「いじめ防止の授業」の実施をはじめとして、本校の課題に対応した指導を推し進める。
- ・ 道徳教育推進教師を講師として、学期2回程度の教員研修を実施し、授業力を高める。

ウ 外国語活動

- ・ 第3・4学年は年35時間、第5・6学年は年70時間実施し、英語専科教員が指導を行う。その際、児童の興味・関心をより引き出すために、ALT及びネイティブボランティア等を効果的・積極的に活用する。また、「グローバル」にも視点を当てて学習活動を展開する。
- ・ 英語専科教員を講師として、学期2回程度の教員研修を実施し、授業力を高める。

エ 総合的な学習の時間

- ・ 各教科、特別の教科 道徳科及び特別活動との関連を深め、主体的・対話的に取り組む探究的・課題解決的な学習活動を展開する。特に、児童一人一人の学習課題設定を明確にするとともに、学習成果を多様な手法により表現できるよう工夫する。また、「ふるさと小平」を焦点化した教材開発を行い、地域・保護者と連携・協働した学びになるようにする。
- ・ 学校公開及び土曜授業を中心に、保護者、地域、関係機関等の外部人材を積極的に活用し、小平市及び十小地域をフィールドとした学習活動を展開する。また、奉仕的な素養を身に付けるため、市社会福祉協議会及び日本赤十字社等と連携を図りながらボランティア活動を各学年に取り入れる。

オ 特別活動

- ・ 小平市特別活動の日など本市教育委員会の特色ある教育施策を踏まえ、異学年交流活動及び学級会の活動を充実させ、様々な人との関わり合いの中で「折り合い」を付ける力を身に付ける。また、児童一人一人のよい考えを学級づくりはもとより、委員会活動やクラブ活動、ふれあい遠足、係活動、当番活動、各種実行委員会にも反映させ、みんなで学校を創り上げる活動を展開し、自主・自立・共生の意識や態度、実践力を育てる。そのための教員のマネジメント力を、校内研究やOJTを通して身に付ける。
- ・ 学校行事や集会活動などを通じて、体験的な活動を重視し、異学年活動等の交流活動やクリーン活動等の勤労・奉仕的活動の充実を図り、児童相互、児童と教師、保護者、地域の人々との望ましい人間関係を培い、社会貢献への意欲や社会参画への態度を養う。

(2) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ・ 「十小 よいところをもっとよくするためのきまり」を児童の意見を取り入れながら即時的な改善・見直しを図り、児童の主体的な行動を全校教職員が一丸となって指導・支援する。また、学期1回「十小生活見直し週間」を実施し、児童の生活改善を家庭と連携して進める。
- ・ 「先」にあいさつ、靴箱の「かかと」をそろえる、「傘」を束ねる、「右側を静かに歩く」廊下歩行等の指導を通して、規範意識及び基本的生活習慣とともに、社会性を身に付ける。また、学期1回の「十小あいさつ週間」を契機として、家庭や地域にも協力を呼びかけ、一体となった取組とする。
- ・ いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期解決を図るため「いじめ対応十小の約束」を策定する。
年3回のふれあい月間及び月2回以上の学校いじめ対策委員会を実施する。毎学期のふれあい月間を活用して、いじめ防止授業を行うとともに、児童理解アンケートを全児童対象に実施し、実態把握を行い、都スクールカウンセラーと連携を図りながら、スピーディーに解消を図る。
- ・ 学校安全計画及び安全教育プログラムに基づき、安全指導・安全管理を徹底し、喫緊の課題となる災害、事故等に対応した避難訓練（月1回）や不審者対応訓練、交通安全教室やセーフティ教室を実施し、自ら判断し、危険を回避する能力を育成する。
- ・ 外部講師と連携した情報モラル教室の実施や「SNS東京ノート」及び「SNS学校ルール」に基づいた指導、家庭への啓発・連携を通して、情報モラル教育を推進・強化する。
- ・ 学期1回の生活指導全体会、毎週実施する生活指導対応会議等を通して、いじめ、不登校、児童虐待等の問題に対する理解、情報共有、具体的な対応策を協議し、都スクールカウンセラーや市スクールソーシャルワーカーなど関係機関と連携し、全件組織対応で改善・解消を図る。

イ 進路指導

- ・ キャリア・パスポートを活用した「自己をみつめる」活動を特別活動や朝の会、帰りの会等で行い、自己肯定感や有用感をもたせるとともに、前向きさを引き出して、何事にも挑戦する心と行動力を養う。
- ・ 第6学年において地域の事業所等と連携した職場体験を実施する。また、地域の公園や玉川上水等の自然環境、小平市ふれあい下水道館や平櫛田中彫刻美術館等の施設を活用した学習活動、小平第四中学校や一橋大学、武蔵野美術大学、津田塾大学、都立小平南高校、十小地区青少対、子どもクラブ、上鈴木自治会、マンション管理組合等との連携を通して、「ふるさと小平」、「ふるさと十小」に愛着と誇りをもち、貢献する意識を高める。
- ・ 小一プロブレムに対応した「スタートカリキュラム」のさらなる充実を図るため、校区保育園及び幼稚園等と連携し、「スタートカリキュラム連絡会」を開催する。

(3) 特別支援教育

- ・ 支援や配慮を要する児童については、特別支援教育コーディネーター及び特別支援教育専門員を中心として、校内委員会で情報を共有するとともに、個別指導計画や個別の教育支援計画をもとに、組織的にきめ細かな支援を行う。
- ・ 指導・支援に当たっては、スクールカウンセラーを交えた校内委員会において具体的な対応策を協議・実施するとともに、特別支援教室「よつば」との指導連携、小平第四小特別支援学級「ならのみ」、小平第四中「一橋」との情報連携を緊密にした指導・支援を行う。

(4) その他（特色ある教育活動）

- ・ 年3回の土曜授業（学校公開含）において、保護者、地域、関係機関等の外部人材を活用した連携・協働による学習活動や地域をフィールドにした学習活動を展開する。
- ・ 「ふるさと十小・花いっぱい活動」を進め、委員会活動、子どもクラブ、PTA、地域の各団体等と一体となった学校環境美化・整備を行うとともに、校内外の掲示板の一部を地域の方々の作品等のコーナーに位置付けるなど、学校が児童、保護者、地域、教職員のふれあいの拠点となるような工夫を進める。
- ・ 学校図書館の効果的活用や読書の習慣化を進めるとともに、乳児、幼児とその保護者を主な対象とした学校図書館の地域開放など、学校図書館の活性化に資する取組を試行しながら進める。
- ・ 児童の実態や地域の実態を踏まえ、本校独自の「かわりタイム」を創設する。年間を通して「他者、自分、地域、安全、モノ」等との適切な関わりについて学ぶ実践的な取組を創設する。
- ・ 学期始めの1週間は、児童の心のケアに重点をおく「スタートアップ期間」とし、個別に面談を行うなど、児童に安心感をもたせる取組を学年で工夫する。
- ・ 地産地消を推進し、天然素材を最大限に生かした給食調理を行う。また、給食の時間を一単位時間確保し、喫食時間を十分に確保するとともに、昼の放送を通じた献立及び栄養価の紹介や学級でのマナー指導、安全な準備・片付け指導の徹底を図る。
- ・ 長期休業期間の最終週に学習者用端末を活用した「オンラインドリル」を実施する。また、学級閉鎖期間や不登校児童に対応するため、個々の状況を考慮しながらオンライン学習を進める。
- ・ 障がい者理解のためのスポーツ交流（ボッチャ）を、3年生の総合的な学習の時間で取り組む。

